

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春の香りを楽しもう

岡田敬子（千葉市）

日 時: 2015年5月3日 (日) 10:30~12:00 天候: 晴れ

参加者: 14名 (大人11名、子ども3名)

担当指導員: 芳我めぐみ・岡田敬子

五月晴れ新緑の観察日和、菖蒲と蓬を軒下に差す端午の節句の風習をアレンジ、藤の花とウワミズザクラも入れ、生け花風に飾り、参加者を迎えた。

「いきものの里」の説明をして、今日のテーマ「春の香り」は五感を使って観察しましょうと話す。新緑が綺麗なので後で緑の色合わせをしたいから、とお気に入りの葉っぱ1枚の採取用にビニール袋を手渡す。

広場から見えるウワミズザクラ・イヌザクラ・ミズキ・フジの花を観賞する。ウワミズザクラの蕾と未熟な果実は、塩漬けにすると良い香りがして杏仁子（アンニンゴ）と呼ばれる。また完熟の果実は酒につけ、楽しむ。林の入口のヒノキの所で葉っぱを順番にもんで「いい香り」、気孔を見て「Yだからヒノキ」と参加者から正解が出る。ヒノキは風呂の材などに使われ、香りを楽しむ。持参したヒノキに似た葉っぱをもむが「香りがしない」、こちらは「気孔がHでサワラ」、匂いがしないから飯台やお櫃に使われる。マツタケに敷かれているのも「サワラ」、よく似た木でも使い分けている先人の知恵はすごい。

林床にツンツン出ているのはミョウガの新芽、ミョウガは外来種で珍しさと香りを賞味して「芽香」と呼んだとか。足元にムラサキケマンが多数ある。触っては種まき。手の中で弾かせ、種を見てもらい、エアライオソームとアリの関係を話す。杉林にクサギが生えている。葉っぱを触って皆「くさい」、同じところにドクダミがあり、こちらは十葉と呼ばれ、そのひとつに冷蔵庫の匂い取りに使えるとか。今度はニッケイの葉っぱをちぎるとシナモン、ニッキ飴、ニッキ水の香り、と根をかじった世代にはすぐ判った。ヤマコウバシも皆に好かれる香り。林縁に出ると光を通して若葉や藤の花見て「ステンドグラスのよう」と参加の女性。フジが綺麗なのには山が手入れされていないから、と参加の男性。田んぼからシュレーゲルアオガエルの大合唱。観察路にシロツメクサの花が咲いており、皆さん子どもの頃に遊んだようだ。「どんな香りがしますか?」、甘くいい香りに「知らないかった」。その他サンショウ・セリ・カキドオシ・フキなどの香りも楽しんだ。最初に渡したビニール袋にほとんど人が葉を入れていない。日本の伝統色で緑を表す色名はオリーブ系・黄緑系・緑系・青緑系を合わせると53色ある。葉っぱを色見本と重ね合わせ、皆で検討する。ヘビイチゴは若葉色、アケビは萌葱色、シロダモは豌豆色となった。色と香りを楽しみ、広場に戻り、Yさん手作りのヨモギ団子とショウブをお土産いただき、観察会を終えた。



どっちが匂う?



エライオソーム 見えるかな!?